01

まけるな人間ドクター①
まぶたの腫れ
―20年後に消える職業

人工知能の進化が目覚ましく、人間の職業を奪うのではないかと危惧される昨今ですが、医師という職業は20年後に人工知能にとって代わられることはないといいます（松尾　豊『人工知能は人間を超えるか――ディープラーニングの先にあるもの』（角川ＥＰＵＢ選書）ＫＡＤＯＫＡＷＡ／中経出版　２０１５）。

なにかほっとしますが、私は、接触性皮膚炎に罹患したある女性の話を聞いて、医師はそんなに安閑としていられないと思いました。次のＣＡＳＥはそのお話です。

CASE

Ｐ子さんは60歳少し前の主婦。ゴールデンウィーク初日の朝、顔に違和感を感じて目が覚めました。まぶたが腫れぼったく、目がよく開けられません。鏡を見て驚きました。両側の眼瞼がむくみで腫れあがり、まるで別人のような顔です。とっさに10日後に予定されている同窓会が頭に浮かびました。これではとても人前に出られません。Ｐ子さんは、インターネットで休日でも診療している皮膚科医を見つけて受診しました。

連休中ですが、外来は混んでいます。40歳少しすぎの女性医師がてきぱきと診療を進めていました。眼鏡をかけ、顔の半分はマスクでおおわれ、表情はわかりません。医師はＰ子さんの訴えを聞きながら、眼鏡越しにまぶたのむくみをじっと見てから「これでしたら、この薬を塗ってください」と言い、軟膏の処方箋を渡しました。それ以上の説明はありませんでした。病気の名前や何に注意したらいいかを聞きたかったのですが、質問などできない雰囲気がありました。「1週間後に来るように」と言われ、Ｐ子さんはすっきりしない気持ちで帰宅しました。

ところが、むくみは翌日からどんどんよくなりました。そして1週間後の受診時には、すっかり消えていました。医師はまた眼鏡越しに、むくみのあった部分をじっと見て、「もう薬はいりま